



らいいくゆるん
Like You

さくら市男女共同参画都市宣言

私たちさくら市民は

時代を超え 世代と性別の違いを超え

すべての人が心豊かに生活でき

すべての人が互いを尊重し

すべての人が生き生きと活躍できる

さくら市を

未来にわたって創るため

ここに「男女共同参画都市」を宣言します

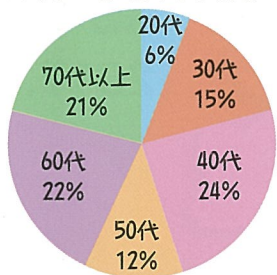
宣言までの経過

平成28年4月、さくら市長からの諮問を受け、市男女共同参画委員会において検討を重ねてきました。このたび、平成29年2月24日、議会での議決をうけ「男女共同参画都市」を宣言しました。

これをひとつの契機とし、さらに、一人ひとりにとって公平で希望のもてる地域社会を目指していきます。



H28さくら博回答者(年代別)



…さくら市 男女共同 参画の今と昔…

H28年度さくら博アンケート結果との比較から見えてくること

毎年、「ゆめ・さくら博」においてアンケートを実施しています。同様の設問があった年度の結果を元に“今と昔”の傾向について考えてみました。

委員さんから、これまでの活動とアンケート結果を通してひとこと

私自身が1人の人間として何ができるのか、そして、家庭や職場や地域社会の中で何が変わらなければならないのか、考え感じ、少しでも良い方向へ、前へ!!

委員長 福田敦子

介助・介護のアンケート比較では男女とも増減傾向は似ており、息子、娘、息子の配偶者が増えています。介護で共倒れを避けるには、家庭で抱え込まなくても、1人で背負い込まなくても、できる介護であってほしいです。

副委員長 藤田深雪

農村女性の立場で感じた、様々な疑問を解消できればと参加した委員会活動。昔気質の父は、随分と『洒落臭い』と思ったことでしょうか。それから10年余り、83歳になった父は食後の食器洗いをすることもあります。(^-^)

大谷恭子

さくら市が住みよさランキングで県内1位に選ばれたことはうれしいです。

また、今年は「男女共同参画都市宣言」という大きな目標をはたすことができました。グラフから見える課題はたくさんありますが、さくら市民が「さくら市大好き!」と言えるまちにしたいなと思っています。

大森陽子

娘夫婦が、育児や家事を当たり前に分担しあう姿に、意識や時代の変化を実感します。今は、子育てや介護は個人の働き方の選択を、職場や社会には環境整備が求められます。働く担い手を生む社会の支援は、まだ遠いと感じます。

小林 都

課題の広さ深さに付んでしまう時もあります。でも、先輩方の歩みのおかげで、少しずつ進展してきていることは確かです。次世代のためにも、活動を継続していくことの大切さを感じています。

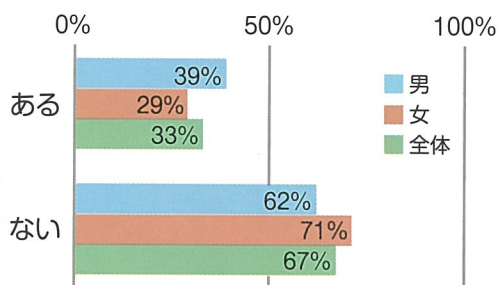
笹沼良子

Q.家庭や地域・職場で性別による不平等を感じることがありますか?

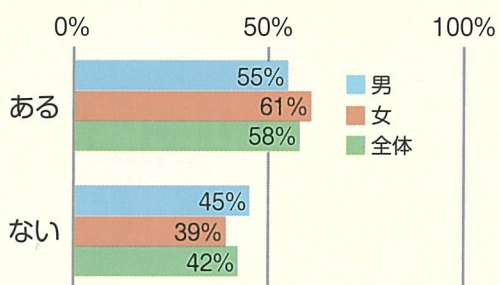
【職場】

H15は全体で「ある」が58%に対しH28は33%に減っています。これは管理職などに少しずつでも女性が雇用されたこと、また、意識の変化の現れでもありと考えられます。

【H28】職場

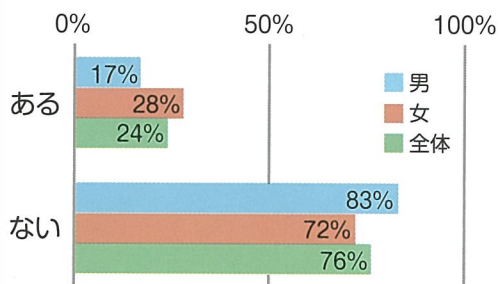


【H15】職場

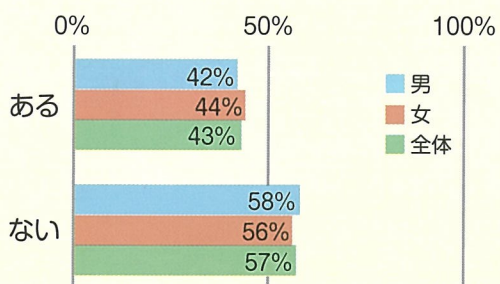


左右のグラフを比較してみましょう

【H28】地域



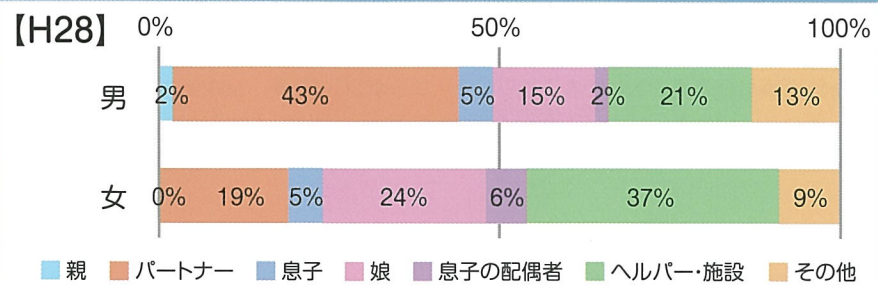
【H20】地域・職場



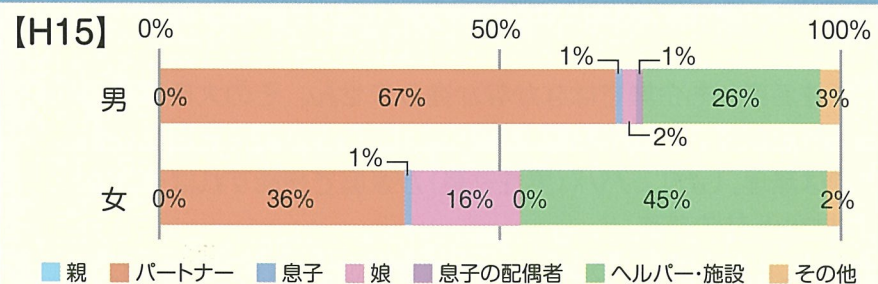
【地域】

H20は全体で「ある」「ない」の割合が半々位なのに対しH28は「ない」が76%と不平等意識が減ってきています。決して問題が解決されているわけではありませんが、男女ともに個性を發揮し認め合っているということかもしれません。

Q.自分が介助・介護が必要になったら、誰に看てもらいたいですか?



上下のグラフを比較してみましょう



【介護】

H15はパートナー、ヘルパーや施設という回答が多いのに対し、H28は自分の息子や娘に看てもらいたいという回答が増えています。介護施設が増えている中で、実際入居させた経験や、経済的負担の大きさなどが背景にあるのかもしれない。

介護のグラフは、13年前よりH28年の方が娘息子に看てもらいたい人が増えてきています。誰かが我慢することなく看る人も看られる人も笑顔で生活できる心豊かな社会を築きたいものです。今から身近な人を大切にすることで生きたいと思います。

渡邊能辰

介護のアンケートに協力してくれた女性の方が「やっぱり施設かな」と。本当はどうなのでしょう。家族に迷惑はかけたくないと思うのは皆同じです。でも現状は待機者や老老介護など問題は多いのではないのでしょうか。希望を実現するために環境を整えることが大事だと思います。

藤田浩子

私たちの子育ての頃に比べると、女性が育児休暇を取りやすくなってきたように感じますが、男性が子育てに協力するための育児休暇はまだ取りづらい社会のように思います。しかし、働き方を改善してみんなで子育てしていこうではありませんか。

山田志津子

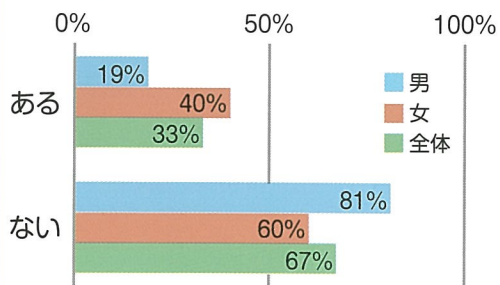
委員として丸6年、これまでの活動はどうだったろうと考えるこの頃。はたして男女共同参画を市民のみなさまに伝えることができたでしょうか。これからももっと多くの方々に、より良い男女共同参画社会のあり方を伝えていけたらと思っています。

澤村まつ子

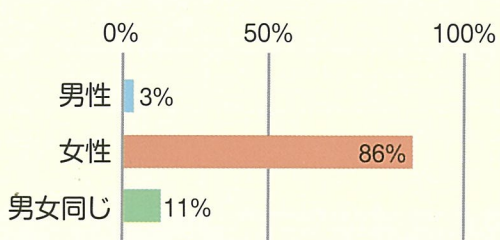
【家庭】

H15の家事分担は女性の割合が突出していましたが、H28には家庭での不平等感「あり」の割合は33%と減っています。男性も家庭において積極的に家事・子育て等に参加・分担していると考えられます。

【H28】家庭



【H15】あなたの家庭では家事を主に誰がしていますか?



男女共同参画都市宣言記念イベント開催予告!

開催日時:平成29年6月27日(火) 13:00~15:20

会場:さくら市氏家公民館 ホール(さくら市櫻野1322番地8)

【イベントタイムスケジュール】

宣言セレモニー 13:00~13:20

寸劇 13:20~13:40

(休憩 13:40~13:50)

記念講演 13:50~15:20

記念講演 「男女ともに輝き活躍できる

働き方・生き方」

元祖イクボス



川島 高之 氏

~イクボスが増えれば社会が変わる。

働きやすい職場・選ばれる企業になって社会も家庭もみんな笑顔に~

【プロフィール】神奈川県生まれ。三井物産(株)入社、上場企業社長、2016年社長退任し独立起業。仕事の傍ら、小・中学校のPTA会長(元)、少年野球のコーチやおやじの会代表も務めた。NPO法人コジカラ・ニッポン/代表、NPO法人ファザリング・ジャパン/理事。内閣府男女共同参画委員。NHK「クローズアップ現代」で特集され、AERAの「日本を突破する100人」に選出されるなど、多数メディアに登場。

男女共同参画の概念は、女性のためだけにあるわけではありません。

イクメンという言葉は定着してきましたが、「定時退社」や「育休取得」など職場での男性の「やりづらさ」はあまり変わっていない感じがします。その原因のひとつは、固定的な性別役割分担意識や古い価値観ではないでしょうか。

一方、政府が長期戦略として掲げる「女性活躍」も企業ではなかなか進みません。その大きな要因の一つに「男性の長時間労働・休みづらい環境がデフォルト状態」があります。核家族で、子どものいる女性社員(ママ)が過度な残業や休日出勤は無理。しかし、パパ(男性社員)が家庭で機能すれば…。「女性活躍」と「男性の育児参画」、この2つはセットなのです。

このことを企業のボスたちはどれだけ理解しているのでしょうか。そして、管理職世代は「育児」は終わっていても、老親の「介護」がやって来る確率が高いのです。「介護離職」も企業社会の今日的なテーマです。

(FatheringJapan、イクボスプロジェクトより一部抜粋)

企業のみなさん、子育てしながら働くお父さんお母さん、すべての人たちに聴いて欲しい、とても参考になる内容です!ぜひご来場ください。

H29・30年度さくら市男女共同参画推進委員

大募集!

私たちと一緒に市の男女共同参画を進める活動をしてみませんか?

イベントの企画や情報紙の発行など、誰もが住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう!老若男女問いません。ぜひ、あなたの力を生かしてください! 企画政策課 (☎681-1113)

募集中!

とちぎ女性活躍応援団に登録しませんか!?

さくら市も「とちぎ女性活躍応援団」に登録しています!

「とちぎ女性活躍応援団」とは、知事をトップに、官民協働によるオール栃木体制で働き方改革や女性の活躍を推進するものです。登録は、パソコンや携帯電話で「とちぎウーマンナビ」または「とちぎ女性活躍応援団」と検索してください。さくら市役所にも登録用紙があります。

